

名称 「新地城（^{みのくびじょう}峯首城）跡」

所在地 谷地小屋字館前二

概要 JR常磐線新地駅の西方約1.8^{キロ}の地点の丘陵上にある。最も高い地点は、標高約48^{メートル}で、眼下に周辺の地域が一望のうちに見下ろせる。

「仙台領古城書上」に『山、谷地小屋城、東西50間、南北50間』とあり、また「仙台領古城書立之覚」には、面積3,748坪とある。

本丸跡とされている所は、平場をなしており、全周は土塁と濠が残っている。また、東館、北屋形、西館を囲んで外濠の跡もみられる。

「奥相茶話記」や「東奥中村記」に築城の前後のことが記されており、それによると、永禄年間に谷地小屋要害を捨て、新地の山に城を構え、門馬雅楽介を城代においた。雅楽介は一年ほどで病死し、泉田甲斐を新たに城代としたとされている。この後、天正17年5月に伊達政宗は相馬方の虚をついて攻め入り、新地駒ヶ嶺を手に入れ、亘理源五郎を城代とし、その後大町主計が城代となった。

なお、相馬氏の前に新地城が築かれた説もあるが、確たる根拠がない。

名称 「駒ヶ嶺城（^{がぎゅうじょう}臥牛城）跡」

所在地 駒ヶ嶺字館

概要 JR常磐線駒ヶ嶺駅の西方約1^{キロ}の地点の丘陵上にある。

「仙台領古城書上」には、『山、駒ヶ嶺城東西24間、南北52間』とあり、「仙台古城書立之覚」には、面積1,248坪とある。

城郭の南西に白鳥神社があり、ここから北東の丘陵一帯に築かれている。本丸跡は、東西約60^{メートル}、南北約30^{メートル}の平場になっている。

東と西の門跡には、枅形の土塁が残っており、また本丸より一段低く西館、南に二の館、東に三の館の跡があり、その周囲に外濠がめぐらされている。

「東奥中村記」に『宇多郡駒ヶ嶺ニハ元来城無シ、新地便宜ノ為、藤崎村ニ屋敷構ヘシテ原如雪ヲ置レシガ城無クテハ始終如何成トテ、盛胤ノ御代切開レテ城トハ成リヌ』とある。

新地城とほぼ同じ頃に、最初藤崎に屋敷をつくり、まもなく駒ヶ嶺城を新たに築いたものである。しかし、新地城と同様、天正17年に伊達政宗により攻略され、以後は相馬との境の城として重視された。

享保3年（1718）から伊達一族の宮内主税が城代となり駒ヶ嶺など1,400石を領していたが、慶応4年戊辰戦争の前線基地となり、同年8月11日、官軍方の攻撃によって炎上し、歴史の幕を閉じた。町内には、このほか「木崎」「杉目」「藤崎」などに古城跡がある。